

2021年6月29日
県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会
代表 荒川照明

日立市議会の産廃処分場建設「容認」に対する 抗議 声明

日立市議会は6月25日、本会議で「新たな産業廃棄物最終処分場整備の受入れに関する決議案」を賛成21、反対5で可決しました。多くの課題があり、対策の検証がされていないにも関わらず、産廃処分場整備の受入を容認したことに強く抗議します。

1. 産廃特別委員会のこれまでの審議は、処分場本体や新搬入道路（選定要件違反）についてほとんど審査が行われず、処分場に関する総合的な議論がされていません。
2. 処分場の基本設計は示されず、架空のイメージ図でも新搬入道路はなく、現実の規模など詳細設計も全くなく、議会も市民も処分場の安全性を検討することは出来ません。
3. 私たちが提出した請願書および陳情書はすべて精査をせず、「産廃特別委員会で受入を容認したから、付託された請願、陳情はすべて不採択」と結論づけたのみでした。これでは審査したとは言えません。
4. 候補地の日立セメント鉱山跡地は広大な唐津沢の谷間にあり、「エコフロンティアかさま」とは地形が全く異なります。私たちは、大井川知事宛てに提出した「異議申し立ておよび追加資料」で、谷間の湖は防災ダムの役割があり、仮に処分場が出来れば集中豪雨で洪水の危険があると指摘しましたが、具体的な議論をすることもなく建設を容認してしまいました。そもそも、水源地の多賀山地と鮎川の上流に産廃処分場を建設することは最悪の選択です。
5. 決議で「一定の理解を得られた」と述べていますが、とんでもありません。私たちは多くの市民の協力で、本年6月4日に累計1万5千550筆の反対署名を小川市長に提出しており、「諏訪町に処分場はいりません」が市民多数の声と思います。
6. これら市民の声を反映していない、審議もしていない日立市議会の処分場建設「容認」決議に強く抗議するとともに、私たちは引き続き、小川市長が「受諾しない」と県に回答するよう、署名活動や様々な取り組みを進めます。市民の声に真摯に向き合った判断をするよう本市に求めて行きます。

以上